

笹川保育園の多文化共生

昨年のリーフレットに対し、世代間のつながりはもちろんのこと、異なる文化間のつながりに努力している保育所（園）からFAX返信をいただきました。

訪問させていただきますと、日系ブラジル人などのコミュニティのある地域で、多文化共生保育の実践が展開されていました。節分では、日本語のニュアンスのまま「オニ」をどのように翻訳したらいいのかが難しいね、「デビル、サタン」と訳すと子どもにとって宗教的な意味で怖い存在になってしまうと、通訳の方たちと話し合われたそうです。

ひな祭りについては、地域の児童も集まるセンターで、日本の祭もブラジル等の祭も共に楽しみ、雛人形の制作を、宗教的な背景に配慮しつつ実践していました。（写真①・②）



鳥取市「流しびなの館」

昨年のFAX返信の中にも「伝統を大切にしたい」という理由で、行事に取り組んでいる様子が見られました。では、「伝統」とは何か……。今回そのような思いもあり、鳥取市用瀬にある「流しびなの館」を見学することにしました。

館の中には、人形の立ち位置や飾り方が違う物、数・素材・大きさが違う物など様々な人形が飾られており、今の段飾りの人形が時代や地域により変化してきたことが、よくわかりました。

今回の見学で、伝統は伝統であるが、必ずしも同じではなく、変化するものであるということを実感し、今までしてきたことにとらわれる必要はないのだと感じました。私たちは、昔から受け継がれてきた、親が子の健康・成長を願う思いを大切にしながら、段飾りに象徴されている身分制度や、ジェンダーの視点で、今の子どもたちに何を伝え、何を大切に行事に取り組んでいくのかを考えていくことが必要だと思います。それが、人権を大切に保育につながるということだと思います。



さらなる語り合いのためのホームページへのお誘い

- ▶行事について考えることで人権保育の裾野を広げる今回のプロジェクトは、今年度で終了ですが、この課題についてはこれからも考え続ける必要があり、実践にも新たな展開が期待されます。
- ▶行事について考えるなかで、何がどのように深まったのか、あるいは、新たに考えることができたのか、そして、子どもたちに、あらゆる差別に立ち向かう力をつくる保育とどのようにつなげていくのか、ぜひ、一緒に考え歩いてまいりましょう。
- ▶パソコンや携帯でホームページを見たことがない方も、使い慣れている方と一緒に見ていただけますと嬉しいです。
- ▶FAXでのご意見も歓迎です。（ホームページで紹介させていただく場合があります。）（FAX：059-233-5533）
- ▶これらもつながって考え続けるために、ホームページを作成しました。ご意見などがある方は、コメント機能を使ってご記入ください。コメント欄への記入がためられる場合には、mie_jh001@mail.goo.ne.jp宛にメールでお送りください。その際、ご意見等につき「名前付きで公開可」「匿名で公開可」「公開不可」の区別をお知らせください。
- ▶ホームページには、このプロジェクトに関わったメンバーの思いや願いや訴えも順次掲載していきます。

ブログアドレス▶ http://blog.goo.ne.jp/mie_jh001/



三重県人権保育実践研究プロジェクト

2008年2月 発行

三重県健康福祉部 こども家庭室

節分・雛祭りを人権保育の視点で考える

写真で見るプロジェクト

中間報告後の活動

- 昨年度のリーフレットへのFAX返信等をもとに議論を深めました。
- 三重県内各地の保育所と、鳥取市の「流しびなの館」や保育所を見学して交流し、保育実践における行事のあり方について情報を得て、語り合いました。
- 上記の議論に、より多くの方に加わっていただくために、このリーフレットを作成しました。
- 掲載できた写真も議論も、ごく一部です。皆さんとより深い議論をするためのホームページ（ブログ）を作成しました。携帯電話からも見る事ができます。



鳥取市：流しびな

伊賀市：ひなまつりでの取り組み



尾鷲市・熊野市



四日市市笹川保育園：行事を通じた多文化共生の取り組み



伊勢市あさま保育所
志摩市鵜方第一保育所
鳥羽市かがみうら保育所



*本リーフレットの掲載の保育所からは、ご厚意で訪問・見学・写真撮影・掲載の許可をいただきました。また、掲載の保育所・園の実践に他もならうべきであるという趣旨で掲載しているわけではありません。

昨年度プロジェクトで発行させていただいたリーフレットにたくさんのご意見をいただきました。どの文章からも保育にかかわるみなさんお一人おひとりの思いが感じられ、リーフレットをもとに伝統行事を人権の視点で考え、取り組んでいただいている様子がうかがえました。その中で『**伝統の良い部分は伝えていきたい**』『**行事すべてをいけないとするのではなく、その中にみられる様々な固定化された見方（鬼のとらえ方など）がいけない**』という意見が共通の思いとして出され、自分たちの保育を考える機会になったという感想をいただきました。今後も私たち保育に携わるものとして、保育をマンネリ化させるのではなく、人権を尊重した保育を続けることの大切さを再認識させられました。

節分

FAX返信より



○前回のリーフレットで5つの実践要素を紹介しました。それ以外の実践要素をお聞きしたところ…

- ・食育としてとらえた（栽培から食まで）→下記で紹介
- ・新聞、紙などの廃材利用で豆まき（食べ物をまくことに抵抗を感じたことから）
- ・鬼の色・表情にこだわった実践（赤鬼、青鬼、緑鬼—泣き鬼、怒り鬼、笑鬼）

○鬼の扱いを組み合わせた実践は…

- ・悪い鬼と良い鬼の出る絵本を読み合わせる。
- ・節分と保育参観を組み合わせ、保護者と一緒に鬼ごっこをした。

○前回のリーフレットを読んで感じたこと

- ・日本の親は、節分の鬼は悪者として感じていても、小さい時の鬼ごっこや絵本で鬼に対して幅広い理解をしていると感じる。
- ・職員間で話し合う事で、自分たちの心も揺れることができた。
- ・保護者にも（少し）考えてもらえる機会となるようにたよりをだした。
- ・今までこうやってきたから…ではなく、立ち止まって考える機会になった。

実践紹介

実践から①

実践「鬼の絵」から②

昨年度の取り組みの中から

「大豆を育てよう」

「豆をぶつけるってどうかな？」の2点の取り組み

活動①大豆を育てる

食育⇒「いのち」をテーマに…～子どものつぶやき～

- ・「おいしいお豆（枝豆も食べて）」
- ・「節分に食べた豆と違う（枝豆を食べて）」
- ・「汗いっぱいでした分おいしい」（世話をしてきた体験から）
- ・「なあ～んや枯れや茶色の豆にならへんのか？」
- ・「お豆っていろんな味がする」

※給食にでてくる豆をみて「保育所のお豆？」等、豆への関心が高まる

活動②鬼パーティー

- ・『島ひき鬼』などの絵本を読み、話し合いをする
- ・鬼の面をつくり自分鬼を表現して遊ぶ
- ・収穫した豆を炒って食べた

取り組んだ後の子どもとの話し合いから…

保育士「うちでも豆まきするの？」

子ども「う～ん（考えている）」「豆まきするのいやや言う」「豆投げたら鬼さんおこる」「いたいと思う」など…。

ねらい おとなの中には、オニへのマイナスイメージもあるが、子どもは、オニにどのようなイメージをもっているのか？また、それが絵本などをとおして、どのように変わるのか？

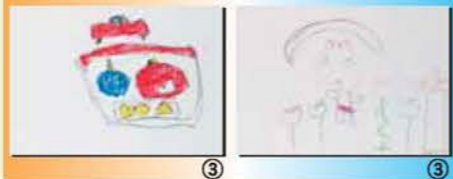
①「鬼って知ってる？」と投げかけ何も見せず何も言わず、絵を描いた。



②『島ひきおに』『おにたのぼうし』など絵本を読み、いろいろな鬼がいることを知らせ絵を描いた。



③自分の体にいる鬼を豆まきで追い出した後絵を描いた。



変化 2回目の絵に大きな変化がみられ様々な絵本を通してイメージをふくらませてきたことがわかり、さらに、3回目体験をする事で豊かになってきた。

おとなの投げかけで子どもの先入観を変える事ができるきっかけ作りになる。

(深谷北保育所)



FAX返信より

ひなまつり

- ・由来を知ると、身分制度がとても気になった。
- ・けがれ意識・身分差別が感じられる。それぞれ意見を出し合い、何を伝えていくか話し合った。
- ・「今は人権・人権とやかましくなってきた」という考え方は、新しい気づきを受け入れられない姿勢である。
- ・行事のステキな部分を見つけたい。
- ・人それぞれに役割があり、どの役も大切な事を話した。
- ・考え方が柔軟でないと“気づき”ができず、昔からのやり方にこだわり、すんなり受け入れられない部分があった。
- ・地域を生かした取り組み。
- ・自分たちから保護者への発信が足りなかった。
- ・保護者に「雛人形飾ったらあかんの？」といった疑問が生じる事のないよう園での行事の取り組みの方向性を啓発していきたい。
- ・流し雛のあり方？病氣と共に生きている人もいる。流して流れないものが…
- ・水平社宣言の日として、3月3日はみんなが幸せに暮らせるように願う日でもあるととらえている。



取り組み

《由来を知ること》

- ①流しびな かたしろさん・庶民の習慣から
- ②段かざり 平安時代に着せ替え人形であそんだ「ひいな遊び」と奈良時代から始まった「流しびな」の習慣が結びついた。豪華なひな人形を飾って宮中で祝うようになり、この行事が江戸中期頃豪商から庶民へと広がっていった。
- ③ひなあられ—ももは春、黄緑は夏、黄色は秋、白は冬
四季の色がついている雛あられが本来のものであった。
ひしもち —白は雪 緑は若草（春の到来） 桃は花



《実践から》

- 一人ひとりが柔軟な考えが出来るように、色々な方法を模索していく。
 - ・「かたしろさん」について知る。
 - ・自分の身代わり人形を作る。
 - ・いろいろな素材を使用して人形を製作する。
 - ・世界に1つしかない自分の人形作りをする。
- 地域の人たちとかかわって、成長を喜ぶ
自分のそしてみんなの成長を喜んでもらっている、喜べるというあたたかな思いが共有できる平和なくらしに感謝する。
 - ・地域のお年寄りと一緒にひょうたんつくりをする中で、子どもたちへの思いを話してもらおう。
- 年中元氣にという思いをこめて、ひなあられを焚き火でいって食べる。